



龍拔見徳街論

第九編



414  
A1127  
11



龍拔兒德街論第九編

合本銀行ヲ論ス

我國合本會社ノ進路ハ概シテ障礙ニ遭遇セシカ獨リ合本銀行  
ノミハ非常ノ成果ヲ得タリキ蓋シ合本營業ノ原來頗ル困難事  
タルハ數十年ノ以前アタムスミスカ暗ニ論刺スル所ニシテ數  
十閱年ノ今日ニ於テモ尚ホ能ク一讀ノ勞ニ當ル者アルナリ然  
リト雖モ合本銀行ハ昔時ヨリ既ニ之ヲ格外ニ措ケリ曩ニ予ハ  
該主意ニ関シタル實事ヲ叙列シ且ツ其理由ヲ詳論セシカ早ヤ  
四ヶ年ノ星霜ヲ經タリ尔後復タ幾許ノ實驗ヲ以テ聊カ前論ニ  
附言ス可キ者ヲ得タレハ茲ニ其ノ數章ヲ抄板シテ先ツ讀者ノ  
一閱ニ供ス

合本會社ノ重モナル者三種

第一 會社ノ資本金ノ直接ニ其商業上ニ使用スルカ為メニア

八尾正文譯

大正十一年四月  
隈侯爵郵奇贈

ラスミテ唯々其商業ノ確實ナルヲ證スルカ為メニ備フ  
ル者例ヘハ銀行者ノ本業ハ原来他人ノ財本ヲ運用スル  
ニアレハ彼等自己ノ資本金ヲ使用スルニ限ル間ハ未ダ  
真ノ銀行者ト云フ可カラス又保險會社ノ如キモ若干ノ  
星霜ヲ經ルノ後ハ全ク自己ノ資本金ヲ要セサルニ至ル  
可シ如何トナレハ其收受スル保險料ハ到底被保人ノ要  
需ニ超過セサル可カラサレハナリ然ラハ則チ此兩業ニ  
於テ若干ノ資本ヲ備フル者ハ畢竟世人ニ談會社ノ確實  
ナルヲ知ラシメ以テ其篤信ヲ買フカ為メノ具ニ過ギサ  
ルナリ

### 第二

傳讀權ヲ有スルノ會社ニシテ從來明断ヲ以テ之ヲ活用  
シ来リシガ假令ヒ充分ノ明断ナキモ尚ホ其業ノ繁盛ヲ  
期スルニ足ル可キ多益ノ特權ヲ有スル者

### 第三

一 個人若シクハ一私立會社ノ企テ及ハサル大金ヲ使用  
スレバ其業ノ簡易ナルハアタムスミスノ所謂運為常ニ  
一途ニ出テ恰モ一定規ノアルカ如ク之カ順序ヲ錯乱セ  
ント欲スルモ得可カラサル巨大ニシテ且ツ單簡ナル事  
業ヲ營ム者

概言スルニ以上ノ諸會社中ニ就キ最モ多益ナルモノハ  
合本銀行ヲ以テ巨擘トスルナリ實ニ今前ニ記載シタル  
數多ノ便益ハ都テ銀行ニ於テ蒐集スル者多シ既ニ舊時  
ニ設立セシ一銀行ニ至テハ特權ニ等シキ名聲ヲ得タリ  
但シ法律上之ニ特權ヲ附與シタルニハアラサレバ社會  
ノ公評ニ依テ不測ノ勢力ヲ之ニ與ヘタルナリ  
又銀行ノ事業ハ素ト單簡ナル可キ者ナリ故ニ若シ難苦  
ナルコアラハ之レ其ノ整理セサルノ兆候ナリ例ヘハ銀

行者カ無定期ノ預リ金ヲ貸付ケニ使用スルニ際リテハ  
其抵當品ノ如キハ必ス容易ニ賣却スルヲ得ヘキ者ニ  
シテ即チ一目ニ品質ノ良否ヲ辨シ得可キ者ナル可シ若  
シ品質ノ容易ニ見定メ難クシテ疑ハシキ者タルニ於テ  
ハ是レ則チ幾分ノ確實ヲ失フ者ナレハ此等ノ抵當品ニ  
ハ決シテ貸付ヲ許ス可カラサルナリ凡ソ商業ハ其種ノ  
何タルニ論ナク全ク一定規ノ下ニ箝束ス可カラサル者  
ナレハ勿論ノ下ニシテ豫測ノ及ハサル場合往々生スル  
トナキヲ得サルナリ銀行ト雖モ又然ラサルヲ得ス但チ  
銀行業ハ當時存在ノ諸商業ノミナラス恐ラク後未創起  
ノ諸業中ニ就テ最モ變化少ナク最モ簡易ナル者ニシテ  
既ニ舊時ニ設立セシ一銀行ノ如キハ恰カモ簡易業ノ全  
利ヲ占メ併テ專賣業タル利便ノ幾分ヲ掌握セルモノナ

レハ之レト利益ヲ争フハ其状恰モ「ロント」ニタベル有  
店ナル稱酒ト競争ヲ試ムルニ異ナラス敢テ之レト拮抗スル  
者ハ必ス多少ノ損失ヲ招カスハアラサルナリ  
然リト雖モ銀行ノ利益タル重モナル原因ハ必要資本ノ  
寡額ナルニアルナリ其資本ハ只世人ノ篤信ヲ買フノ一  
目途ニ止マレハ其額タルヤ又此篤信ヲ得ルニ充分ニシ  
テ足レリトスルナリ故ニ銀行者ハ仮令モ其取扱フ所ノ  
抵當品ヲ最モ確實ナルモノ、ミニ止メ從テ其生スル所  
ノ利分モ甚タ夥カラサルニモセヨ之ヲ其資本金ニ算當  
セハ尚ホ巨大ノ利潤トナル可シ何トナレハ則チ銀行ノ  
運用スル所ノ金額常ニ資本ノ幾數倍ナルヲ知ル可カラ  
サルカ故ナリ  
經驗ハ前論ノ確當ナルヲ證スヘシ故ニ余ハ今本項ノ終

リニ於テ英吉蘭蘇格蘭及ヒ愛爾蘭ノ合數百十箇ノ諸銀行カ各自收獲セシ年度平均ノ利潤ヲ掲載ス可シ但シ此等ノ銀行ハ余カ充分ノ報告ヲ得タル全數ナルヲ以テナリ(但シ英國銀行ハ之ヲ除ケリ)其他銀行ノ數猶ホ多キハ疑ヲ可キナシト雖モ地方株式取引所ノ表中ニモ記入ナク又多クハ年度ノ報告ヲモ發行セサレハ其詳ラカナルヲ知ルニ由ナシ故ニ已ムヲ得ス茲ニ之ヲ除ケリ

英吉蘭蘇格蘭及ヒ愛爾蘭ノ合數百十箇ノ銀行利益配當割

銀行ノ數	資本金
貳割以上	一五
一割五分乃至貳割	二〇
一割乃至一割五分	三六
合	一四〇五六九五〇

五分乃至一割	三六	一四一八二、三七九
五分以下	三	一、三五〇、〇〇〇
合	一一〇	四〇、三三一、五三五

此表ニ由レハ一割五分以上ノ利益ヲ配當セシ者殆ント資本總額ノ二割五分強ニ居リ又一割以上ヲ配當セシ者ハ其六割二分五厘ニ居ルヲ知ル可シ夫レ斯ノ如キノ好利益ヲ得ル者未タ曾テ他ノ合本商社ニ見サル所ナリ余カ此ノ決算ヲ取リシノ時期ハ恰モ一千八百六十六年ノ不景氣ニ際セリ故ニ(之レヲ平時ニ比較スレハ)其殖利ノ薄キ余カ論理ヲ証明スルノ効力ニ乏シク却テ之ヲ反證スルニ好時期タルモ未タ知ルヘカラス然リト雖モ能ク此年間ノ不景氣ヲ探知セハ自カラ銀行殖利ノ他ニ勝

レルヲ見ルニ足ル可シ此時ニ當テ銀行ノ不景氣ナルヤ  
金利ハ大ニ下落シ確實ナル抵當品ハ窮乏ヲ市場ニ告ク  
銀行殖利ノ薄キ又怪シムニ足ラサルナリ人若シ此不景  
氣ノ詳ラカナルヲ知ラント欲セハ之ヲ諸銀行ノ帳簿ニ  
問フヘシ乃チ判然其跡ヲ見ルニ至ラン此際人心ノ動搖  
ハ就中銀行ヨリ巨額ノ貸付ケヲナシタル所ノ社會ノ間  
ニ最モ甚タシカリシヲ以テ平常細心ヲ旨トスルノ銀行  
ト雖モ其損失實ニ容易ナラザリキ(但僻遠ノ地ニ在ル者  
ノミハ大概此害ヲ免カレタリ)夫レ斯ノ如キ不幸ノ時期  
ヲ以テ標準ヲ取ルモ尚ホ銀行ノ殖利斯ノ如ク大ナレハ  
又他ノ業ノ及ハサル所タル知ルヘキナリ  
且其配當金ノ多カラシテ需メス專ラ銀行ノ倉庫ヲ充  
サシトテ是レ勤ムルハ是等銀行ノ常情ニシテ恰モ通規

ノ設定アルカ如シ故ニ斯ノ如キ危急ノ際ト雖モ尚ホ是  
等銀行ノ倉庫ニハ當時利益ノ中ヨリ積立置タル金額實  
ニ千三百萬封度ヲ有セリ之ヲ資本金合計四千零三十三  
萬千五百三十五封度ニ算當スレハ無慮三分ノ一ニ近シ  
其利益又大ナリト云フ可シ是レ蓋シ百十箇ノ銀行中現  
ニ或ル銀行ノ取締役ハ成ル可ク分配金ヲ減殺シ由テ以  
テ其倉庫ヲ充タスニ及々タル者アリシニ由ルナリ  
然リ而シテ此危急非常ノ時ニ際テ尚ホ斯ノ如キ好利潤ヲ  
占領セシノ理由ハ瞭々トシテ明カナリ右百十箇ノ銀行  
中二割以上ノ利益ヲ分配セシ者ハ一行ノ外渾テ舊來營  
業ノ者ニ非サルナク一割五分乃至二割ノ利益ヲ拂ヒシ  
者モ又盡ク然ラサルナシ之ニ由テ觀レハ前已ニ開陳セ  
ル彼ノ所謂特占ノ便益ナルモノハ斯ノ如キ危急ノ時ニ

際テ又更ニ著シキ効カヲ有スルヲ實ニ驚クニ耐ヘタリ  
若シ銀行ヲシテ斯ノ如キ特占ノ便益ヲ有スルナクシハ  
決シテ斯ノ如キ好利潤ヲ拂ヒ得ルニ至ラサルヘシ故ニ  
此ノ如ク莫大ナル利益ノ收獲アルハ實ニ特占便益ノ德  
ト云フ可キナリ試ミニ彼ノ二割以上ノ利益ヲ配當セシ  
ノ銀行ハ其創立ノ幾年前ニ係ル歟ヲ問ハ、一行ノ外ハ  
尽ク二十五年以外ニ非サル者ナク一割五分乃至二割ノ  
利ヲ拂ヒシ者モ又都テ然ラザルハナシ之レニ反シテ新  
起銀行ニ至リテハ未タ積年ノ信憑ヲ得ルニ由ナキカ故  
ニ又斯ノ如キ好利益ヲ得ルヲ能ハス若シ競争ヲ舊來營  
業ノ諸銀行ニ試ミント欲セハ却テ幾分ノ收獲ヲ減殺セ  
サルヲ得ス收獲ヲ減殺シテ尚ホ強テ之レト拮抗ヲ企レ  
ハ到底營業ノ維持スヘカラサルヲ如何センヤ特占便益

ノ貴重ナル又大ナリト云フ可シ  
又特占便益ノカハ利息ヲ拂フ可キ金額ノ多寡ニ應シテ  
異同アルナリ然リ而シテ舊來營業ノ或ル銀行ニ於テハ其  
取扱フ所ノ金額ニ尽ク利息ヲ附スルアリ又或ル銀行ニ  
於テハ利息ヲ拂ハサル所ノ金額甚ク多キニ居ルアリ蓋  
シ其得意ニ對シ多分ノ利息ヲ拂フハ勿論其株主ニ配  
當スル所ノ利益從テ減少セサルヲ得ス則チ蘇格蘭ニ於  
テハ通常日割ノ利息ヲ拂フカ故ニ左ノ表ニ於テ示スカ  
如ク其株主ヘノ配當金ノ一割五分以上ニ超ユル者一行  
モアルヲナシ

蘇格蘭諸銀行ノ資本金額并ニ利益  
配當割合

○バンク、オフ、スコット		資本金額		利益配當割合
ラシヤ、	一、五〇〇、〇〇〇		一	二
○ブリチシ、リレニン				
コムペニー、	一、〇〇〇、〇〇〇		一	三
○カレドニヤン、	一、二五〇、〇〇〇		一	〇
○クライデスデール、	九〇〇、〇〇〇		一	〇
○コムメルシヤル、バン				
ク、オフ、スコットラ				
インド、	一、〇〇〇、〇〇〇		一	三
○ナシヨナル、バンク、				
オフ、スコットランド	一、〇〇〇、〇〇〇		一	二
○ノルツ、オフ、スコツ				

トランド、	二八〇、〇〇〇		一	〇
○ユニオン、バンク、オフ、				
スコットランド、	一、〇〇〇、〇〇〇		一	〇
○シチー、オフ、クラスゴ				
、	八七〇、〇〇〇			八
、				
○ロヤルバンク、	二、〇〇〇、〇〇〇			八
、	九、六七五、〇〇〇			

此表ニ由テ示ス所ノ蘇格蘭諸銀行ノ利益ハ決シテ之ヲ薄シトス可カラス然リト雖モ「ロンドン、エント、ウエスト」ミニストル銀行又ハ南方ノ英吉蘭ヲ指ス諸銀行ノ如キ殖利ノ大ナル者ヲ以テ之ト比較セハ又利益夥シト云フ可カラサルナリ

英國銀行ノ利益配當割合ニ至テハ實ニ英國他ノ諸銀行  
ノ如クナラサルヲ見ル而メ偶々莫大ノ利益ヲ占メ得ル  
モツハ其運用スル所ノ資金又莫大ナルニ由ルノミ蓋シ  
英國銀行ハ實ニ二條ノ困難ニ罹レルナリ則チ該銀行ノ  
創立ハ他ノ合本銀行ニ比スレハ遙カ以前ニアリト雖モ  
其創立時期ノ便ニ至リテハ却テ遙カ他者ニ下レリトス  
該銀行創業ノ日ニ於テハ唯資本金ノ運用ト紙幣發行ト  
ノ利ニノミ著目シホタ預金運用ノ鴻利ヲ知ラサリキ而  
メ始メ該銀行ト政府ノ關係ヲ尋ヌレハ恰モ一會計會社  
ノ如クニシテ現當銀行業普通ノ見解ヲ以テスレハ未タ  
銀行ノ名ニ適セサルノ有様ナリシ此時ニ當リテヤ若シ  
該銀行ニシテ政府ノ要求ニ應シ(現當ニ於テハ政府ヘノ  
貸付ハ人ノ疑慮スル所)貸付ケヲ肯セサルキハ其營業

ヲ差留タルナルヘキニヨリ當ニ該銀行ノ存在ヲ今日ニ  
見サルナルヘシ其創立ノ時期斯ノ如ク夫レ不便ナリ是  
レ此ノ銀行難事ノ一ナリ  
又英國銀行ノ資本金ハ之ヲ他ニ比較セハ實ニ莫大ナリ  
ト雖モ利益ヲ得ルノ手段ニ至リテハ却テ少ナシ是レ蓋  
シ慣習ニ由リ英國銀行カ保守スル所ノ無殖利正金準備  
額ノ巨大ナルハ自他諸銀行ノ比ニアラサルカ故ナリ而  
メ若シ此準備金ナキトキハ我カ英國ノ銀行仕組ノ体面  
ヲ一變セサルヘカラス然ラサレハ諸銀行ハ忽チ尽ク破  
産ニ至ラサルヲ得サルナリ然ルニ英國銀行カ殖利ヲ謀  
ルノカハ他者ヨリ寡少ニシテ利益ヲ分配セサルヘカラ  
サル資本ノ高ハ又他ヨリ太ナリ是レ則チ難事ノ二ナリ  
斯ノ如ク英國銀行ハ現ニ二條ノ難事ニ箱束セラレハ

以テ又タ自カラ大ニ他者ト異ナル所アレハ決シテ他ノ  
諸合本銀行ト一般視スヘカラサルナリ  
今合本銀行ノ業ニ於テ果シテ世人カ過慮スルカ如キ難  
事アルヤ否之ヲ其実際ニ照シテ以テ世人ノ憂慮ノ當否  
ヲ辨シ其惑ヲ解クハ實ニ緊要ノトナルヘシ由テ今茲ニ  
一千八百三十二年ニ於テ「ロルド」オヘルストーシ氏カ論  
述セシ所ノモノヲ擢拔シ以テ讀者ニ示スヘシ其ノ論ニ  
曰ク思フニ合本銀行ニ於テハ唯タ潤大ナル責任ヲ負ヘ  
ルノミニテ其他通常ニ銀行業ノ欠ク可カラサル者ヲ欠  
ケリ夫レ銀行ノ業ハ之ヲ普通ノ商業ニ比スレハ一層注  
意ヲ厚フシ當ニ時々刻々ノミナラス絶ヘス其部業ヲ巡  
視シ且日々ノ取引ヲ着守スルノ役員ナカルヘカラマ高  
又一旦急事ノ起ルニ當リテ熟議ヲ經ルノ暇ナキ時ハ即

咎ニ之ニ應スルノ果斷及ヒ臨機應変以テ之ヲ處スルノ  
知量又欠クヘカラサルナリ然レモ合本銀行ハ事務ノ都  
合ニ由リテハ代理者ヲ以テ之ヲ理セシメ主任自ラ之ヲ  
理スヘカラサルノ場合ナキヲ得サルカ故ニ主任者ハ幾  
分ノ責ニ任シ代理者ハ幾分ノ責ヲ負擔スヘキ歟豫シメ  
規律ヲ設ケテ判然之ヲ制限スヘカラサルナリト  
然リト雖モ余ヲ以テ之ヲ觀ルニ「ロルド」オベルストーシ  
氏ハ斯クマテニ合本銀行ヲ憂慮スレモ其憂慮スル所ノ  
モノハ獨リ合本銀行ノミニ止マラス私立銀行ト雖モ又  
免カレサル所ナリ況ヤ合本銀行ハ此点ニ付キ其營業上  
却テ私立銀行ヨリハ大ニ進歩シタルノ實アルニ於テオ  
ヤ請フ試ニ見ヨ旧時私立銀行ノ借主ハ多ク一箇ノ市人  
ニシテ其心情ノ外一物ノ抵當アルヲナシ而モ「ロルド」オ

ヘルストロイン氏カ曾テ論說セシ所ニ由レハ「銀行タル者ハ一物ノ抵當ヲ要セス只借主ノ心術力量ハ此ノ負債ヲ辨償スルヲ得ヘキヤ如何ニ注意シ以テ其取引ノ利害ヲ知ルヘキノミ」ト今仮リニ論頌ハ陝隘ナル小都府トシ其人民ハ各々本業ヲ固守スル者トセハ氏カ說或ハ行ハル、トモアルヘシ然レモ論頌ハ大都府ナリ又決シテ各人ノ行事心術ヲ精細ニ看守スヘカラス然ルヲ尚ホ氏カ說ヲシテ實際ニ施行セシメハ營業ノ傾頌スル當ニ多時ヲ跋クサルヘシ況ヤ一寒村タリト雖モ今日ニ於テハ其說ノ行ハル可カラサルヤ是レニ由テ觀レハ合本銀行ノ營業ハコロト、オベルストロイン氏カ說ノ所ノモノト通合セサル知ルヘシ假令又當時ニ在テハ否ラサリシトスルモ今日ニ於テハ到底其不適當ナルヲ知ルナリ

合本銀行ノ好成果ヲ得シハ全ク世人ノ想像外ニ出テシ者ト云フ可シ既ニコロト、オベルストロイン氏カ如キ私立銀行者ノ地位ニ在ル者ノミナラス世ノ思慮家ニシテ過半ハ合本銀行ノ自カラ傾倒ヲ急シシ為メニ驚慌ヲ惹起シテ竟ニ一國ノ衰頌ヲ招クニ至ルヘキヲ憂慮セリ一千八百三十年ヨリ同四十年ニ至ル年間ノ高業ニ関スル論說ハ盡トク此ノ思想ヲ帶ヒサル者ナク千八百四十年ニ至テ尚ホ此思想止ムヲナク終ニ一千八百四十五年ニ至テ「ヤ、アル、ピール」氏ヲシテ合本銀行ノ確實ナラサルヲ憂慮スルノ餘リ嚴格ナル條例ヲ設ケシムルニ至レリ而シテ此條例ニ由レハ以來合本銀行ヲ創立セント欲スル者ハ株金百封度毎ニ五十封度ノ税金ヲ拂フニアラサレハ之カ創立ヲ許サ、リキ因テ此條例ノ出ルヤ非常ニ合本銀行ノ進路ヲ支障シ其取消ノ時ニ至ルマテ数年ノ間タ又新タニ合本銀行ヲ創立スル者ナ

キニ至リタリ然レトハアルヒ此氏ハ流石ニ明識家ナレハ  
此件ニ於テモ恐ラク他ノ諸件ニ於ケルカ如ク又其明識ノ致ス  
所ナラサルヲ知ランヤ氏ハ當時諸方ニ創起セル合本銀行ノ確  
實ナラサルヲ憂フルノ極終ニ此處置アルニ至リシノミ然リト  
雖モ此條例ノ出テヨリ尙未競争者ノ創起スル者ナカリシカ故  
ニ既ニ存立セル合本銀行ニハ恰カモ專營ノ權ヲ與ヘタルニ等  
シカリシ何トナレハ當時又更ニ私立銀行創立ノ企アルヲ見ス  
且合本銀行ハ民ノ為メニ條例ヲ以テ其創設ヲ抑制セラレタレ  
ハナリ夫レ斯ノ如ク氏ハ一千八百二十六年ヨリ同四十五年ニ  
至ル年間ニ於テ創業セシ合本銀行ニ付テハ非常ノ危疑ヲ抱キ  
タリシト雖モ其實合本銀行ヲ保護シ且其業ヲ振起セシメ未タ  
氏カ如ク厚キ者アラズ去レハ氏ノ如キハ合本銀行ノ為メニハ  
無ニ大恩人ト云ハサルベカラサルナリ

斯ノ如キ充分ノ成果ヲ得シトニ関シテ此ニ二條ノ疑点アリ則  
チ及令ヒ協心力ハ英國ニ讓ラサルノ國柄ナリト雖モ苟モ英國  
ニアラサルノ以上ハ決シテ斯ノ如キ成果ヲ得ルヲ能ハサルノ  
二原理是レナリ第一此等壮大ノ銀行ニシテハ其壮大ノ地位ヨ  
リ見ルモ其負債高ニ對シ適分ノ準備金ヲ有セサルニ自然ノ勢  
ナルニ然ラサルモノハ是レ他ナシ是等銀行ノ當初ニ於ケルヤ  
未タ當時ニ見ルカ如キ壮大ナルニアラス合本銀行モ亦始メハ  
英國銀行ノ周圍ニ集ムル所ノ小銀行ノ群中ニ加ハリテ當ニ始  
メヨリ英國銀行ニ於テ其準備金ヲ有セシメミナラス若シ英國  
銀行ナカツセハ各自ニ保有セサル可カラサル(相當ノ準備額ヲ  
モ有セザリキ然ルニ尙來此件ニ付テ論究スルモノナキハ此時  
ニ當リ未タ全ク貨幣論ノ局ヲ結ハス尋テ又一千八百四十四年  
ノ條例出シニ由リ凡ソ是等ノ趣意ニ關係ヲ有スルノ人ハ尽ク

此論場ニ傾向シ平時ハ合本銀行ノ欠所ヲ窺フノ人ト雖モ此殊弊ヲ論争スルニ暇マアラサリシカ故ナリ然リ而テ余カ知リ得ル所ニテハ始メテ此殊弊ニ付テ論端ヲ發キタルハ一千八百五十七年ニ於テ當時英國銀行ノ頭取タリシシヨエキニリシ氏ヨリ當時出納尚書タリシ「サ」シヨリ「レ」ウキ「ス」君ニ贈呈セシ一公書ニ在リ英國銀行ノ頭取及ヒ取締役等ハ彼ノ一千八百四十四年頒布ノ條例ニ付キ「サ」シヨリ「レ」ウキ「ス」君ヨリ各自別々ニ意見ヲ下問セラレ其應答ノ顛末ハ渾テ當時公布セラレタリ而チ「ウ」エグリ「ニ」氏ノ答ヘニ曰ク

今若シ英國銀行ニ於テ保有スル所ノ準備金額ヲ以テ之ヲ合本銀行カ保有スル所ノ準備金額ニ比較セハ恐ラクハ合本銀行上ニ頃ニ世人ノ信憑ヲ破壊スヘキノ新危難ヲ醸生スヘシ論頃ノ合本銀行決算報告ニ由レハ其預金ハ三千萬封度以上

ニシテ社資ハ三百万封度ニ出テス而シテ現時運用スル所ノ金額ハ概子三千百萬封度ノ巨額ニ下ラサルナリ之ニ由テ見レハ此三千百萬封度ノ負債ニ備フルノ準備金ハ只二百萬封度ノ寡額ニ過キサルナリト

既ニ前ニモ開陳セシ如ク當時ニ於テ世ノ論者ハ頗ル他議ニ喋々タルノ最中ナリシカハ斯ノ著目スヘキ主意モ尚ホ論者ノ耳底ニ達スルニ至ラサリシナリ然レモ余ハ此書ニ於テ此主意ニ關シ充分ニ開陳シタレハ最早已ニ之カ第一疑点ヲ氷解セシムルニ足ルヘキヲ信スレモ今又余ハ此ニ數言ヲ付スルヲ要ス現今合本銀行ハ其準備金ノ過半ヲ確實ニシテ且何時タリモ正金ト交換スルヲ得ヘキ利附ノ抵當品ヲ以テ保持シ又ハ為替仲買人ニ預ケ込ムヲ常トス而シテ此預金ト此抵當品ヨリ巨額ノ歳入ヲ收穫シ由テ以テ其利益ヲ増加ス故ニ今若シ無殖利ノ正金

準備額ヲ一層増サシメントスルニ至レハ自然年度ノ分配金ヲ  
減殺セサルヲ得サルカ故ニ當時ノ如キ成果又期スヘカラサル  
ナリ  
又世ノ沉着論者ハ次第ニ我カ最大ナル合本銀行ノ制度ニ関シ  
第二疑点ヲ着破シ来レリ曰ク此制度ニシテ彼ノ數百萬ノ巨額  
ヲ無難安全ニ取扱フニ差問ヘナカルヘキヤト既ニ世人ノ知ル  
カ如ク合本銀行ノ制度ハ數人ノ取締役アリテ銀行凡百ノ事務  
ヲ執リ且ツ一頭取アリテ之カ助力ヲ為スナリ然リ而ノ此取締  
役ノ任ニ耐ユヘキノ人才ハ論頃府ニ於テ乏ミカラス請フ見ヨ  
金カ敏才熟練共ニ備フルノ人ニシテ繁業ナキモ商業上已ムヲ  
得サルニ由テ日々府中ニ出テ終日手ヲ空フシテ此ニ止マルモ  
ノアルヲ仮令ヘハ一商人ニシテ専ラ其身一己ノ資本金ヲ運用  
スルニ止マル者ノ如キ是レナリ蓋シ其資本ノ巨額ナラサルヨ

リ隨テ日々ノ取引モ亦繁劇ナラサルカ為メ空過ニ歸スルノ時  
間甚タ多ケレト日々賣買ノ景況ヲ知ラシカ為メニ終日市場ニ  
滞在セサルヲ得サルナリ若シ斯ノ如ク時間ヲ徒費スルヲ厭ヒ  
終日取引ニ従事セント欲スルモ其資本ニ限リアルヲ以テ強テ  
之ヲ為サント望マハ到底自家ノ破滅ヲ招カサルヘカラス故ニ  
苟モ商業ニ老練ナル人ハ銀行取締役ノ列ニ加ハリ此徒費ニ歸  
スルノ時間ヲ以テ社務ニ従事センコトヲ冀フ者比々皆之レナリ  
夫レ身ニ威權ヲ添ユルノ一要職ニ列班センコトヲ欽慕スルハ斯  
ノ如キ人々ノ常情ニシテ殊ニ大都會ニシテ商業繁榮ノ地ニ在  
テハ斯ノ如キ人才愈々多シ故ニ敏才熟達ノ者ヲ撰擇シ倫敦ノ  
一大銀行ニ蒐聚セシムルノ容易ナル未タ嘗テ今日ノ如キアラ  
ス又今日ト雖モ他所ニ於テハ決シテ然ルコト能ハサルナリ  
又今ヤ管理者ニ適任タルヘキ銀行者ヲ得ルニ未タ嘗テアラサ

ルカ如キノ便宜アルナリ當今此種ノ人物ハ日々益々増加スル  
ノ勢アリ何トナレハ則チ苟クモ筆算ノ技ニ長シ且ツ尋常ノ智  
量アル沈着家ナラハ全良ナル銀行者トナルニ難キナケレハ  
ナリ夫レ銀行者カ危難ナク貸付ヲ為シ得ルノ道ハ蓋シ數多ア  
ルニアラス故ニ才識アリ且ツ沈着ニシテ勉強カアルノ人ハ速  
カニ其道ニ慣手ス可シ但シ避里ノ銀行ニ於テハ不動産ヲ取扱  
フ多キカ故ニ先ツ不動産規律ヲ知ラサルヘカラス而シテ其規  
律ノ錯雜タル一朝ノ能ク解スヘキ所ニ非ス況シヤ之ニ通曉セ  
ント欲セハ正ニ多年ノ苦學ヲ積マサルヲ得サルナリ然レモ都  
會ニ在ラバ田畑山林等ノ不動産ニ關係スルト甚タ罕レナルヲ  
以テ其事務自ラ單簡ナレハ少シク意ヲ用ヒハ之ニ通曉スル實  
ニ容易ナルノミ尤モ日々取扱フ所ノ事務極メテ繁多ナルカ故  
ニ苟モ一大銀行ノ頭取タル者ハ其ノ事務ヲ頗ル迅速ニ處理ス

ルニ慣手セサルヲ得ス然レモ當時ノ人才ハ舉テ此繁劇ノ内ニ  
成育セシ人ナレハ其事務ニ慣手スル恰モ當初言語ヲ習フト一  
般ニシテ今之ヲ忘滅セント欲スルモ得ヘカラサル又彼ノ言語  
ニ於ケルカ如シ就中技倆ノ達士ハ此繁劇ノ事務ヲ處理スルノ  
敏慧迅速ナル殆ント人為ニアラサルカ如シ當時ノ論頓ニ於テ  
銀行ノ頭取及ヒ取締役ニ適任ノ人オヲ得ルニ難カラサルモ宜  
ナラスヤ  
人若シ「子」此他又云ハント要スル所アルヤト問ハ、余ハ乃チ  
尚ホ數多アリト答フベシ夫レ至良ナル衆取締役カ實際ニ預カ  
ル所ノ事務ハ頭取ヨリ付問ノ條件若シクハ取締役中一二熱心  
家カ該議局ノ熟議ノ為メニ示ス所ノ條件ヲ議決シテ其當ヲ失  
ハサルニ在ルナリ蓋シ十五人乃至十八人ノ議負カ會同スルハ  
一大事件ヲ議スルノ時ト雖モ尚ホ其冗多ナルヲ恐ル況シヤ瑣

カタル銀行ノ議事ニ於テハ或ハ議場ニ煩雜ヲ来スノ弊ヲ免レ  
ス若シ又此冗多ナル人員ニシテ能ク小事ヲ議スルニ適當ナ  
ルヲ見ル可アラハ是レ只僥倖ニ過キサルノミ何トナレハ冗多  
ノ議員ニシテ一度議場ヲ開カハ其議事ハ單簡ナル一小事件ノ  
可否ニ関ルモ尚ホ衆論喋々トシテ止ム時ナク優等ノ會員モ往  
々口ヲ開クノ間ヲ得ルニ苦シムノ弊ナキニアラス又嚴肅ナル  
議長上ニ坐シテ精密ニ其論議ヲ看守スルニアラサレハ或ハ衆  
口一齊ニ發シ議事遂ニ錯乱シ或ハ一小事ノ議場ハ忽チ重大ノ  
議場ニ変シ或ハ本議ヲ棄テ枝葉ニ涉リ議事卒ニ決セス及令ヒ  
決スルアルモ枝葉ノ論ニシテ全ク益ナキニ屬スルヲ常トスレ  
ハナリ故ニ數多ノ事件ヲ審議センカ為メニハ必ス此數多人員  
ノ時間ヲ要スルヲ大ナルヘキニ由リ此時間ノミニシテ既ニ數  
多ノ人員ノ集合ヲ以テ一大事業ヲ管理セシムルヲ能ハサルヲ

知ルナリ

困難獨リ此ニ止マラス何トナレハ若干名ノ取締役局ヲ以テ一  
大營業ヲ監督スルニハ當ニ該局カ此集會ニ於テ費サシヲ肯  
スルヨリハ一層多クノ時間ヲ要スルノミナラス又取締役各自  
カ之ニ費ヤサシヲ肯スルヨリハ一層多クノ時間ト思慮トヲ  
要スルカ故ナリ蓋シ取締役等ハ僅ニ各自本業ノ餘暇餘カヲ以  
テ銀行ニ従事スル者ナレハ其全力ヲ専ラ銀行ニ皈ス可カラス  
若シ其本業ヲ理スルノ暇ナキニ於テハ忽チ一家ノ破産ヲ招ク  
ニ至ル可シ既ニ斯ノ如ク其本業ハ一家經營ノ閑スル所ナルカ  
故ニ全力ヲ銀行ニ歸スルハ必ス各自取締役等ノ甘受セサル處  
ナル知ルヘキナリ尤モ或ハ本業ノ極メテ閑ル者或ハ本業ノ管  
理ヲ委任スヘキ組合仲間アル者罕シニ之レアリト雖モ概シテ  
之ヲ云ヘハ一會社ノ取締役等ハ其本業ヲ怠リ身代破滅ノ危険

ヲ冒サスシテハ其全カヲ以テ專ラ社務ニ從事ムルヲ能ハス然  
ルニ一朝若シ身代ノ没落ヲ招カハ忽チ世人ノ信憑ヲ失ナヒ最  
早銀行取締役タルノカヲ失ワテ如何センヤ  
又金カ知量兼備ノ人十五員乃至十六員ヲシテ其全カヲ一社ノ  
管理ニ尽サシムルヲ得ルトスルモ此人員ノ全カヲ役スルキ  
ハ之ヲ償フニ又適分ノ給料ナカルヘカラス故ニ壯大比ヒナキ  
ノ會社ト雖モ必ス此費額ニ耐ヘサルヘシ而シテ今茲ニ金カト  
云ヒシハ抑モ意アリ夫レ銀行ノ業ハ只世人ノ信憑ニ依テ成レ  
ルモノナレハ苟モ之カ取締役タル者ハ既ニ一家ノ經營ニ差支  
エナクシテ一身已ニ定マルノ名聲アル者ニアラサレハ或ハ銀  
行ノ信憑ヲ世人ニ失フノ恐レアレハナリ然レモ取締役タル者  
ハ巨万ノ金カヲ有セサレハ不可ナリト云フニハアラス只相當  
ノ資本ヲ有シ且ツ從來若干ノ營業ヲ經為シ來リテ世人ノ信憑

ヲ受クル者ナルヲ要スルノミ然ハ則チ是等有力者ノ全カヲ役  
セハ實ニ巨額ノ給料ヲ與ヘサルヲ得ス何トナレハ商業モ亦法  
學鑿學ノ如ク實ニ一個ノ專門學ニシテ其之ヲ實行スルニ當テ  
ハ熟練モ缺ヘカラス又才識モ要スヘシ又金カモ莫ルヘカラ  
ス而シテ高法ニ通曉<sup>スルノ人且其通曉</sup>ノ商業上ニ適分ノ資本ヲ用テ得ル所ノ利益  
ハ帝ニ資本ヨリ生スルノミナラス實ニ熟練ノ有無ニ由テ巨<sup>大</sup>  
ノ收入ヲ期スヘケレハナリ然ルニ十五人乃至十八人ノ有力者  
ヲシテ各自ノ本業ヲ廢棄セシメ之ヲシテ專ラ合本銀行ノ事務  
ヲ管守セシメント要セハ其本業ノ利益ニ相當スルノ給料ヲ與  
ヘサルヲ得サル勿論ナルモ斯ノ如キ巨大ノ費用豈能ク一銀行  
ノ支工得ヘキ所ナランヤ  
之ニ由テ是ヲ觀レハ充分ノ監督ヲ數人ノ取締役ニ望ムハ到底  
行ナハルヘカラサルヲ以テ自然社務ヲ舉テ悉ク一頭取ノ手ニ

歸スルニ至ルノ弊ナキ能ハス然ルニ百般ノ事務ヲ舉テ一頭取  
ノ手ニ委托スルノ危険ナルハ既往ノ實驗ニ由テ之ヲ知ルニ足  
レリ者ヨ當初合本銀行ノ業未タ今日ノ如ク盛大ナラス預金ノ  
額未タ今日ノ如ク多カラサルノ時ニ於テスラ尚ホ頭取タル者  
或ハ奸曲ヲ行ヒ或ハ管理ヲ謬リ遂ニ一社ノ衰頽ヲ招キシ一  
ニシテ足ラサルヲ素ヨリ有心故造ノ罪ヲ犯スハ稀レニアル  
ヲアリト雖モ巨萬ノ財資ヲ主任シ漸ク慾情ニ眩迷サレ卒ニ奸  
曲ニ陷ルハ凡夫ノ通弊ナレハ苟モ一大銀行百般ノ事務ヲ一頭  
取ノ手ニ委托シ取締役ノ充分ニ之ヲ監督スルナキハ預メ多  
少此害アルヲ期セサル可ラス然リト雖モ大胆ナル頭取カ一朝  
管理ヲ謬ルノヲアラハ其害又奸曲ノ比ニアラス管理上一端ノ  
失モ其害ノ烈ル所ハ尚ホ遠謀ノ奸曲ニ逾ユヘキナリ盜害懼ル  
ヘシト雖モ事秘密ニ涉ルヲ以テ又大害ヲ醸生スルニ至ラス然

レモ管理上失策ノ害ハ然ラス頭取カ充分ノ信憑ヲ得テ事務ヲ  
公ニ執ルノ際偶然發生スルノ害ナレハ其及フ所實ニ豫測ス可  
キニ非ス故ニ數多ノ人員ニテ組成シタル取締役局ノ督監ノ下  
ニ大胆慾萬ノ頭取アリテ之ニ事務ヲ主任セシムルヨリ銀行制  
度ノ有害ナルモノハアラス何トナレハ仮令ニ取締役一局ノ人  
員ハ皆ナ方正實直ナルモ頭取ハ其管理上至危至險ヲ冒スヲ  
得而シテ取締役ハ豫メ之ヲ防遏スルヲ得サルヘケレハナ  
リ  
夫レ銀行ノ事務一頭取ノ手ニ歸スルヨリシテ起ルノ害ハ斯ノ  
如ク大ナリト雖モ又之ヲ未發ニ防遏シ得ルノ策ナキニアラサ  
ルナリ則テ衆取締役中ニ就キ他者ヨリ稍々本業ノ閑ニシテ其  
時間ノ大半ヲ銀行ニ專歸シ得ル者數員ヲ撰定シ以テ當直委員  
ト為シ之ヲシテ常ニ銀行ニ在テ日々取引ノ模様ヲ檢查シ又大

借主ノ家産或ハ經營ノ有様ヲ觀察シ又常ニ親ヲク頭取ノ施事ニ注目シ苟モ委員ノ允諾ヲ經スシテ擅マ、ニ危險ノ取引ヲ為スコトヲ得テラシムヘシ然ル由ハ此委員タル者ハ素ト百事ニ小心ヲ用ユルノ常習アルニ由リ萬事危險ノ取引ト認ルキハ能ク之ヲ制止スルコトヲ得ヘキナリ蓋シ大都會中萬一老練ノ商人ニシテ偶々事ヲ謬ルコトアラハ是レ只小心ヲ用ユルノ薄キニ在ルノミ慎マスンハアラサルナリ且又此寡數ノ當直委員ハ取締役ノ全權ヲ代理シ且ツ恰モ内閣ノ姿ヲナシテ衆取締役決議ノ趣意ヲ守リ以テ日々百事ヲ監察スルカ故ニ彼ノ專斷活潑ナル頭取カ其管理トニ於テ輕卒冒險ノ處置アルヲ制止シ能ク大銀行ノ安全ヲ保ツニ足ルヘシ而シテ此委員ノ目ヲ竊ニテ奸曲ヲ働ラカント欲スルモ決シテ得ヘカラス況ニヤ奸曲詐欺ヨリ起ルノ害ハ現時ニ於テモ既ニ稀レニシテ小害タルノ實アルニ於テ

ヲヤ

然リ而シテ我カ謀合本大銀行ニシテ未ク斯ル性質ノ委員ヲ組成セシモノ有ルコトヲ聞カス又其規則ノ如キモ未ク之レアルヲ知ラサルナリ加之ノミナラス現ニ其得意或ハ株主ニシテ尚ホ且ツ銀行現時ノ管理委員誰タルヲ知ルモノナシ斯ノ如キハ實ニ太甚シキ失策ト云フヘキナリ試ニ思ハ巨額ノ財資ヲ銀行ニ委託セント欲セハ先ツ之ヲ運用スルノ誰人タルヲ知ラサルヘカラス況ヤ一大株主ニシテ自己ノ損益ハ其社務ヲ管理スル委員ノ才愚如何ニ関スルニ於テヤ故ニ此委員ヲ撰定スルニ當テ先ツ其人ノ高尚ニシテ且ツ明斷ナルヲ確認シ然ル後之ニ任せサルヘカラス然リ而シテ株主及ヒ世人ヲシテ此確實ナル委員アルヲ知ラシメハ今日ハ確乎タル理由ナクシテ徒ラニ信ヲ置キシモ遂ニ信憑ヲ置クニ足ルヘキ充分ノ理由ナクシテ信ヲ

置クニ至ルヘシ

蓋シ日々交代ノ最多取締役員ハ只一人ノ日勤委員ニ如カサル  
ナリ何トテレハ日々交代スル人員ハ又充分ナル責任ヲ有セス  
例ヘハ月曜日ニ出席ノ取締役カ可決セシ事業モ水曜日ニ出席  
ノ取締役ハ之ヲ非トシ百事整理シ能ハサルニ終ルテ往々コレ  
アルカ故ナリ是ニ因テ之ヲ觀ルニ百事ノ整理ニ就クヲ見ント  
欲セハ宜ク始終一定ノ人ヲシテ事ヲ取扱ハシムヘシ銀行ノ業  
モ又此外ニ出テス然リ而ノ事ヲ執ル者若シ終始同人タルハ  
仮令其人タルヤ充分ノ才識家ニアラスト雖モ其施務上又大ナ  
ル差誤ナカレ可シ然レモ事ヲ執ル者若シ毎ニ變替アラハ仮令  
ト其人タルヤ充分ノ才識家タルモ其施務上決シテ好成果ヲ期  
スヘカラス然ルニ一國ノ政務ヲ議スルニ議官ノ屢々轉移スル  
アリ又危フキコニアラスヤ

我合本大銀行ハ勉メテ其制度ノ詳細ヲ藏蔽シ他ノ評論ヲ避ク  
ルニ汲々タルモノ、如シ大ナル謬見ナリト云フヘシ斯ク云ハ  
、彼レ又必ヤ云シ他ヲシテ其制度ノ如何ヲ知ラサシムルモ  
銀行ノ目的ハ只成果ノ如何ニアリテ制度ニアラス况  
ヤ我カ合本銀行ノ好成果ヲ得タルハ吾子モ又既ニ許ス所ナラ  
スヤ然ラハ則チ制度ノ如何ノ如キ何カアラン尚ホ此上ニ何ヲ  
カ欲スルヤト余ハ之ニ答テ云シ余ノ此上ニ要望スル所ノモノ  
ハ只此好成果ヲ後來ニ保存シテ失ハサラシメント欲スルニア  
ルノミ然リ而ノ倫敦中屈指ノ一大銀行カ其制度ノ完全ナラサ  
ル由リシテ遂ニ傾倒ヲ招キシトヲ想像シ来レハ自他ノ銀行ト  
雖モ又其制度ノ缺所ナシト断定シ難シ是ニ由テ之ヲ觀レハ現  
時已ニ合本銀行ノ成果上ニ一大及動ノ萌シアルヲ憂懼スヘキ  
十分ノ理由アルナリ夫レ實情ヲ知ラサル國ハ是ニ過失アリシ

ヲ知テハ如何ニシ又他ノ實情ヲ知ラサル國ノ然ルヘキヲ危  
フマサルヲ得シ銀行ニアリテモ其理一ノミ世人既ニ是等銀行  
ノ制度ヲ熟知シ現在ノ銀行ハ彼ノ傾倒セシ銀行ノ如キ危険ナ  
ル制度ノ下ニ管理セラル、ニアラサルヲ詳ニスルハ彼ノ一  
大銀行ノ傾覆セシハ其傾覆ス可キノ理アリテ傾覆シタルヲ知  
ル可ケレハ其傾覆ノ影響聊カ他者ニ及ホスヲナカルヘシ然ル  
ニ現時ニ於テハ若シ一二ノ大銀行ノ傾倒スルヲアレハ忽チ自  
他銀行ノ信憑上ニ大影響ヲ及ホスノ恐レアリ是レ他ナシ公然  
タル報告ナキニヨリ世人固トヨリ其制度ノ如何ヲ知ルニ由ナ  
キヲ以テ一朝一二銀行ノ傾覆スルヲ見レハ他モ又何時此覆轍  
ヲ踐ムニ至ルモ計ラレストノ危疑心ヲ生セシムルカ故ナリ是  
ニ由テ觀レハ銀行ノ制度ハ充分ニ世人ニ報告セサルヘカラス  
又今マ完全ナルモノト雖モ之ヲ報道スルニ遅々セハ其報告ハ

實ニ已ムヲ得スシテ為スノ情狀ヲ示スカ故ニ卒ニ世人ノ信憑  
ヲ得ルニ足ラス難者アリテ必ス云ハシ其報告ニ據テ見レハ勿  
論現時ハ其制度ノ完全ナル如キモ從來ハ真ニ然リシヤ否知ル  
可カラズ小故ニ報告ハ宜シク遅々ス可キニアラサルナリ  
是等大銀行ノ制度如何ニ於テ著シキ得失ヲ有スルモノハ帝ニ  
預主及ヒ株主ノミナラス公衆ニ於テモ亦頗ル利害ノ關係ヲ有  
スルナリ蓋シ我カ合本銀行ノ準備金ハ之ヲ其負債高ニ比較ス  
ルニ實ニ過少ナリ故ニ余輩ハ是等銀行ノ益々盛大ヲ加フルニ  
從ヒ愈々準備額ト負債額ノ權衡ヲ失スルヲ論シ又銀行準備上  
ニ大流出ヲ起スヲアレハ忽チ驚慌ヲ發生スルニ至ル可キヲ論  
シタリ然リ而シテ論中屈指ノ一大合本銀行ノ傾覆ノ如ク夫レ  
世人ヲシテ疑懼心ヲ起サシムルモノハ未タ曾テ他ニ之アラサ  
ル可シ而カモ此傾覆ヨリシテ生スル所ノ結果ハ實ニ彼ノ所

ルラント、ガル子、商會傾覆ノ恐ルヘキニ譲キナル可シ故ニ我  
英國現在ノ銀行仕組ヨリ見ルキハ合本銀行ノ制度ヲシテ確實  
ナラシムルハ實ニ目下緊急ノ一要事ト云フ可キナリ

ワニ士一原

